

♪ 2024年度 **poco a poco** ♪

Nr. 12 2024年10月23日(水)

文責:プファイル・辰巳

学校祭終了～2学期後半へ

学校祭の疲れは、取れましたか？ 秋休みは、十分に静養されたでしょうか。学校生活は今週から後期に入りました。スポーツで言えば後半戦です。

気持ちを新たに、スタートさせたいものです。

さて、季節は秋。みなさんの秋はどんな秋でしょうか。「読書の秋」「食欲の秋」「芸術の秋」・・・すてきな秋の過ごし方を見つけて、秋を楽しんでください。残念ながらドイツの秋は短いです。今月末には冬時間への切り替えもあります。寒い冬に備えての体力づくりとして「スポーツの秋」もいいですね。



音楽こぼれ話 <ピアノの魔術師 ～ 調律師さんの仕事>

ピアノ調律師さんは、ピアノの調律（音合わせ）をすることが主な仕事なのですが、それ以外にピアノ内部のメカニクの調整や修理、修復など、ピアノに関する様々な専門知識が必要になる職業です。

授業中にピアノの内部をみんなで観察したことがありましたね。ピアノの鍵盤1つに対して、低音では太いピアノ弦が1～2本、中音域から高音域では3本の弦が対応しています。つまり、調律師さんは1本の弦だけでなく、2本、3本という複数の弦が美しく響き合うように調律しなければならないのです。ピアノの鍵盤は普通88鍵盤ありますから、約230本の弦を調律することになります。これだけでも大変な作業です。

日本人学校でも学校祭の直前に調律師さんに来ていただきました。あんまり耳の鋭くない私でも、夏休み後のピアノは低音域の音の響きに首をかしげるほどでした。どうやら原因は暑くなったり寒くなったり、湿気が高くなったりした今夏の気候にあったそうです。夏の暑さ、冬の寒さは、ピアノだけではなく、他の楽器のチューニング（音合わせ）にも影響します。このように調律師さんは様々な条件を考慮しながら、1音1音

そのピアノに適した微妙な調律を心がけてくださっているのです。

ヴァイオリンなどの弦楽器は、「ストラディバリウス」や「アマーティ」などの名器に代表されるように、300年を経た現在、コンピュータで解析、模倣制作を試みても、その響きを再現できないほどすぐれた響きを出せる場合があります。しかし、ピアノの場合は、使えば使うほど、すり減ってしまう部分もあり、何百年もその響きを保つというのは難しいようです。そこでまた、調律師さんの腕の見せ所が出てきます。多くの調律師さんは、鍵盤と連動するハンマーの動きやすり減ってデコボコになったハンマーの頭部をチェックするなど、専門的な知識を駆使して、ピアノを常に最高の状態で使えるようにしていただきます。

まれに自分の気に入ったピアノでしか演奏をしないという大ピアニストで、自分のピアノをコンサート会場に運び入れる方もいますが、たいていの場合はコンサート会場に備え付けられているピアノで演奏するのが、ピアニストの宿命になります。そこで、有名なピアニストは、自分の好みの音に調律してくれるお気に入りの調律師さんを連れて、コンサートツアーに出る場合もあります。調律師さんは、まさに縁の下の力持ち、ピアノの魔術師ですね。

では、調律師になるためにはどこで勉強をすればよいのでしょうか。日本国内では、ピアノメーカーに付属する養成機関や専門学校、音楽大学の調律科などに入るのが一般的です。養成期間は1～2年で、卒業後は楽器店やピアノ工房で実務経験を積むことになります。「ピアノ調律技能検定試験」という国家検定もあるそうです。この資格がなくても調律の仕事をする事は可能ですが、「ピアノ調律技能士」を名乗ることができるのは、この資格を持つ人だけだそうです。



ほんのちよっとだけ 演奏会情報

Ensemble Verseau による室内楽コンサート

※日本人演奏家もメンバーに入っている室内アンサンブルです

11月3日(日) 17時から

Festburgkirche Frankfurt にて 住所: An der Wolfsweide 58a
60435 Frankfurt am Main

曲目: ラフマニノフのエレジー、クィーンのボヘミアン・ラブソング
ミッション・インポッシブルのテーマ曲 他

チケット: 25, 25€ Frankfurt Ticket: Tel 069 1340400